

地域包括ケアネットワーク No.75

浅口医師会での取り組みについて

浅口医師会理事 柚木 昌

地域包括支援センター協議会に参加して、在宅での民生委員の熱い取り組みとそれに市と他職種のスタッフとの連携を聞くにつれて、我々医療関係者の関わりも密にならなくてはならないと感じる。今、行われている連携の状況をお知らせします。

今年も「浅口の医療と介護を考える会」は継続して定期的な勉強会を開催している。演者は毎回、医師会のメンバーが交代で行っている。また、浅口市長と里庄町長の同席のもと市と町の職員と医療・介護施設のスタッフの集まりがあり、大いに親睦を深めた。同時にこの席で、ACPについてのカードを用いての終末期の各自の考え方なども話し合えたことは、意味があることであった。さらにACPについては、医療機関では勉強会ももたれ、他の医療機関や施設での取り組みを見る機会も得られた。今後、各医療機関や施設でのACPについての理解が進むと思われる。病院での退院時の在宅支援のためのカンファレンスもうまく機能し、在宅でのご本人と介護者のご家族と介護サービス担当者とのカンファレンスも機能し、安心して在宅療養が送れるような支援も充実してきていると思われる。また、看取りのケースも話し合われ、在宅や施設での看取りのあり方についても合意形成がなされてから退院となっている。

さて、医療関係での連携として、医師と歯科医との連携は、すでに糖尿病で見られている。糖尿病の発症、増悪についての歯周病の重要性について歯科医から度々の情報提供を受けていた。また、在宅医療や高齢者の健康管理での口腔ケアの重要性の報告も熱く伝わってきている。しかし公な部分で医師会と歯科医師会との連携は今までなかった。今年10月30日に「浅口医科歯科連携の会」が開かれ、個々の間での連携はあったが、今後さらに密な関係がしやすい環境ができたことは意味があると思われる。今後も定期的な会合を設けながら医師会としては口腔ケアの充実に向けて、強い絆を歯科医会と持っていくことが大切と思われる。

医師会と学校保健との関係では、食物アレルギーについて、定期的な講演会やアレルギーを持つ学生のご家族との懇談会で、その不安の解消や対策などの個々のケースでの対応についての相談にのることなども医師会として大切な継続事業として行っている。毎回、熱心なご家族とのコミュニケーションをはかりながら、具体的な勉強会をしている。また、年1回はアレルギー専門医を招聘して、市民や医療機関、施設のスタッフなどへの講演会も催されている。施設でのアレルギー問題にも情報提供となり介護者の知識を深め、エビペンも含め、対策に寄与していると思われる。補助金も利用して今後も継続予定である。

認知症については、認知症専門の医療機関である、きのこエスポール病院やももの里病院などに紹介や相談をしながら、外来（在宅療養-訪問診察）や入院対応も行っている。認知症初期集中支援チームに参加しうる研修を受けた医師が今年で4人となったが、チームを立ち上げるケースは少ない。認知症で問題なケースはチームを立ち上げる前に認知症専門病院とケアマネなどが連携して、治療などへの取り組みがスムーズになされているためと思われる。医師会のメンバーはどなたも認知症についてはよく理解されており、多職種の方々とも上手く連携をとりながら、問題を解決されているようだ。

在宅医療については、医療機関同士の連携は、一部は医院同士で不在時の連携と在宅支援病院との連携を通し在宅療養を支援している。最近是在宅（施設内）での看取りケースが増えていると思われる。